

SK式 食事場面 嚥下機能アセスメントシート(食事介助版)

評価日: 年 月 日 開始時刻 : 終了時刻 :

ID: 氏名: 評価者:

嚥下調整分類: (1j 2-1 2-2 3 4 常食) 提供量: (1/2 全量) 水分トロミ: (濃い 中間 薄い なし)
 姿勢: (椅子 車椅子 端坐位 リクライニング位 (度) 頸部前屈位 健側傾斜 頸部回旋)
 手技: (食前口腔ケア 食前吸引 一口量調整 複数回嚥下 交互嚥下 嚥下反射促進手技 k-point スプーン刺激) 備考: ()

チェック欄に○×を記入してください(各1点)。明確な判断ができない場合は悪い反応を選択する。
 明確な判断ができない場合は悪い反応を選択。日常動作や訓練場面、看護師の意見も参考にしてください。
 採点は上位の項目を優先とし、上位の項目が正答である場合は下位の項目は行わず正答とする(例:1意思伝達 1-1-2が正答の場合は1-1-1は無条件に正答となり合計2点となる)。ただし、★の項目は各項目ごとに採点する。

①導入 備考()

1.意思伝達(発語以外でもよい) 2点 チェック	
1-1-2 好き嫌いなど具体的な要求の伝達ができる	
1-1-1 食べられる・食べられないの伝達ができる	
2.発声・発語 全2項目3点満点 チェック	
2-2-2 文で会話(発話)ができる	
2-2-1 単語で会話(発話)ができる	
★ 2-1 挨拶の復唱ができる	
3.構音 2点 チェック	
3-1-2 問題なく聞き取れる	
3-1-1 音に歪みがあるが聞き取れる	

4.呼吸 3点 各1点全3点 チェック	
★ 4-3 SpO ₂ 3%以上の低下がない(評価中)	
★ 4-2 酸素投与されていない	
★ 4-1 呼吸が安定している	
5.姿勢 全2項目3点満点 チェック	
5-2-2 頸部前屈位が自力で保持できる	
5-2-1 頸部前屈位を姿勢調整することで保持できる	
★ 5-1 最後まで食事姿勢の保持が可能	

①導入 合計	
/13	

②先行期 備考()

6.覚醒・注意 4点 チェック	
6-1-4 意識清明かつ食物を追視できる	
6-1-3 意識清明かつ介助者を注視できる	
6-1-2 呼びかけに容易に目が開く	
6-1-1 大きな声や身体の揺さぶりで目が開く	
7.認知・意欲 全2項目4点満点 チェック	
★ 7-2 我慢できる・抑制が効く	
7-1-3 自分で進んで食べようとする	
7-1-2 自らは食べないが促されると食べようとする	
7-1-1 好きなもの(特定の物)は自ら食べようとする	

8.協力 2点 チェック	
8-1-2 協力的である	
8-1-1 協力が得られるがムラがある	

9.耐久性 3点 チェック	
9-1-3 30分以上食べられる体力がある	
9-1-2 20分以上30分未満食べられる体力がある	
9-1-1 10分以上20分未満食べられる体力がある	
②先行期 合計	
/13	

※食事に限らず日常や訓練場面での耐久性も参考にする

③準備・口腔期 備考()

10.歯 2点 チェック	
10-1-2 咀嚼に必要な歯がほぼ残存している	
10-1-1 義歯を着用しておりかつ安定している	
※10-1-2 目安は20本程度。大臼歯、小臼歯の有無を評価する	
11.取り込み 各1点全5点 チェック	
★ 11-5 一度入れた食べ物が口からこぼれない	
★ 11-4 スプーンに食物が残らない	
★ 11-3 上を向いて取り込もうとしない	
★ 11-2 舌や口唇で食物を押し出さない	
★ 11-1 開口できる	

12.咀嚼 2点 チェック	
12-1-2 十分に噛む・噛み砕くことができる	
12-1-1 顎の回旋運動がみられる(すりつぶし)	

※固形物咀嚼の目安は1口20回以上。咀嚼不要の食物形態の場合は0点

13.食塊形成 各1点全3点 チェック	
★ 13-3 咀嚼中(食物輸送中)にムセがない	
★ 13-2 開口(取り込み)時に食物が口に広がっていない	
★ 13-1 咀嚼中に食物が口からこぼれない	

14.送り込み 各1点全3点 チェック	
★ 14-3 嚥下後、口に多くの食物残渣がない	
★ 14-2 咀嚼後、嚥下までほとんど時間がかからない	
★ 14-1 水平または下を向いても食物が輸送できる	
③準備・口腔期 合計	
/15	

④咽頭期 備考()

15.嚥下反射 各1点全6点 チェック	
★ 15-6 喉頭挙上の力が十分(触診時指を押し上げる)	
★ 15-5 喉頭挙上の速度が十分(すばやく挙がる)	
★ 15-4 喉頭挙上の距離が十分(1横指以上)	
★ 15-3 タイミングよく嚥下反射が起こる	
★ 15-2 食物や水が鼻から出ない	
★ 15-1 飲み込む前に開口しない(一口ずつ嚥下可)	
※15-1 嚥下前に次の食物を提示すると開口するかどうか	

17.咽頭の反応 全2項目3点満点 チェック	
17-2-2 ムセが全くない	
17-2-1 ムセがあるが5回以内	
★ 17-1 咳払い・ムセがあるが対処できる	
④咽頭期 合計	
/15	

※リスクが高く食事を中断した場合は17-2-2、17-2-1は0点 ムセがある場合(嚥下前 嚥下後 嚥下中 前半 後半) ムセがみられた食物()

16.嚥下音 各1点全6点 チェック	
★ 16-6 嚥下後の湿性嚙声(湿性音)がほぼない	
★ 16-5 嚥下後の呼吸音がクリア	
★ 16-4 嚥下音が明瞭	
★ 16-3 逆流音が聴取されない	
★ 16-2 詰まり音が聴取されない	
★ 16-1 連続音が聴取されない	

摂取量	主食:	割
	副食:	割
	補助栄養:	割
総合評価:		

⑤食道期 備考()

18.食道期 各1点全4点 チェック	
★ 18-4 嘔吐歴がない	
★ 18-3 食後に食物が口に戻ってこない	
★ 18-2 胸のあたりにつかえる感じがなく(聴取)	
★ 18-1 胸やけの訴えがない(聴取)	

⑤食道期 合計	
/4	

総合計	
/60点	

推奨される食品・食事形態 (0j 0t 1j 2-1 2-2 3 4 常食)